



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

HARMACY NEWSBREAK

【スキルアップ】調剤補助は必要だが、テクニシャンは不要？ 薬経連フォーラムで討論、「薬学的判断以外は誰でも」

「最終的に薬剤師が監査するのであれば、無資格者の計数調剤（ピッキング）は問題ない」

「薬学的判断以外の業務を薬剤師以外でもできるようにすれば、テクニシャンは必要ない」

ー。ファーマライズホールディングスで発覚した無資格調剤問題をきっかけに、薬局関係者の間で調剤補助の在り方に関心が高まっている。そんな現場の薬剤師らを声を吸い上げるフォーラムが12日に東京都内で開かれ、欧米で資格化されているテクニシャン制度の創設などをめぐって討論が繰り広げられた。

【写真】 「調剤補助」「かかりつけ薬局」をテーマに討論した薬経連のフォーラム



フォーラムを開いたのは、中小薬局で組織する保険薬局経営者連合会（薬経連、山村真一会長）。調剤の定義や無資格調剤問題を突き詰めることで、あらためて薬剤師の存在意義を問い合わせ直そうという趣旨だ。

討論に先立つ問題提起では、山村会長と田代健副会長がそれぞれ調剤補助職の在り方について持論を述べた。

田代副会長は、調剤補助職が必要とされる背景にある薬剤師不足に言及。「どうして薬剤師が足りないのかと言えば、どんどん出店しようとしているからだ。しかし、2018年くらいには薬剤師は余り始める」との見方を示した。その上で、今後は調剤助手的な業務をする薬剤師も出てくるとし、テクニシャン制度を創設する必要はないとの見方を述べた。

これに対して山村会長は、「薬剤師の数は十分足りているのに、それでも足りないと感じている。なぜかと言えば、薬剤師でなくてもいい業務を薬剤師がやっているから足りないのでないか」と分析する。個人的見解として、薬剤師の存在を搖るがさない、資格を必要としないカナダの調剤アシスタントのような職種を日本でも配置することが有効との考えを示した。

- 「ピッキングは事務員が行ってもいい」

両氏からの問題提起を受けた討論では、グループごとに薬剤師でなくても行える調剤業務や、テクニシャン制度の是非などについてディスカッションし、それぞれが見解を発表した。

Dグループは、「錠剤は万が一ミスがあっても元に戻せるが、シロップを混ぜたもの、軟膏を混ぜたもの、粉を混ぜたものは元に戻せないので、薬剤師が関わるのがいいのではないかという意見が出た。錠剤のピッキングは事務員などが行ってもいいのではないかというのがわれわれのおおまかな意見」と報告した。混合業務は無理だが、少なくともピッキングは無資格者が行っても構わないとの意見だ。

一方、Eグループは「私たちの後輩のことを考えた時、テクニシャンという制度をつくるべきではない。私たちを手伝ってくれる補助員を活用してやっていってはどうだろうというのがわれわれの考え方だ」と説明した。薬剤師にとって調剤補助は必要だが、テクニシャンではなく、特に資格を必要としない補助員を活用すべきだという結論に至った。

Fグループは「薬学的に判断すること以外のことは誰でもいいのではないか」と踏み込んだ。「テクニシャンとかアシスタントという制度そのものは、そもそもつくらなくても薬剤師が責任を取ることでOKではないか」とし、テクニシャン制度をつくることは薬剤師の業務範囲を限定してしまうことになると反対した。最終責任を薬剤師が負うことの条件に、一定の調剤業務を無資格者にも認めるという考え方だ。

無資格者に認める調剤業務の範囲などは異なるが、3グループとも調剤補助は必要しながらもテクニシャンは不要という点で一致している。

- 「かかりつけ薬局」の定義でも討論

討論ではまた、国が導入に向け検討している「かかりつけ薬局」の定義についても意見が交わされた。Aグループでは、結論まで至らなかったとした上で、「薬剤師はコミュニケーション能力が不足している。まず薬局に来たら薬剤師として名前と顔を覚えてもらうことが大事。処方箋がなくても来てくれる薬局があるべき姿」と、まずは患者へのアピールを求めた。

Bグループは「門前でなくとも保険調剤に依存し過ぎている。OTC、在宅、相談をどうやってつくっていくか。それができた時、患者が選んでくれるかかりつけ薬局になれる」と発表。Cグループは「患者一人一人のニーズに応えられるのがかかりつけ薬局だ」と報告した。いずれも外形的な基準ではなく、患者に認められるよう薬剤師自身の奮起を促すような内容となった。